

「難治がん臨床検体を用いた治療抵抗性メカニズムの解明」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2025 年 11 月 11 日 ～ 2027 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

難治がん臨床検体を用いた治療抵抗性メカニズムの解明

〔研究目的〕

最近の報告では、がんの治療抵抗性はがん細胞を取り巻く微小環境、すなわちがん細胞と非がん細胞が形成する細胞ネットワークと関連がある事がわかってきました。そこで様々な先端技術を用いた解析を行い、難治がんを克服するための治療法の考案に役立てる事を目的とします。

〔研究意義〕

本研究によってがん細胞を標的とした新しい検査法や治療法を作るための基礎知識を得る事ができると考えられます。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属病院で各種消化器がん(胃がん、食道がん、大腸がん)、婦人科がん(卵巣がん、子宮頸がん、子宮体がん)、または泌尿器がん(尿路上皮がん)等の難治がんと診断された方を対象として、診断治療で採取された組織残余検体を用いた研究を行います。研究の流れとしては、患者さんから手術や検査で切除した病気の部分の組織の残りや血液などの診療後の残余試料と、病理診断や治療内容などの病気に関する臨床情報、の2点を提供して頂き本研究を行います。

研究方法としては、対象となるがん組織の詳細な解析を行うとともに、検体の一部を各細胞の生育に適した条件で培養し、細胞の特性を調べる様々な研究、解析を行います。帝京大学において培養された細胞の他に、国立がん研究センター、新潟大学、埼玉医科大学、金沢大学から分譲されたがん由来細胞および病理検体の解析も同様に行います。解析手法としては、インビトロ細胞培養、フローサイトメトリー、病理組織解析、多重抗体イメージング、シングルセル解析による遺伝子発現解析や変異解析、マウス移植腫瘍、細胞生物学的解析や各種生化学的解析を行います。これによって難治がんを対象とした新しい検査法や治療法を作るための基礎知識を得る事ができると考えられます。

〔研究機関名〕

帝京大学、国立がん研究センター、新潟大学、埼玉医科大学、金沢大学

〔個人情報の取り扱い〕

本研究における臨床情報及び検体から得られるデータは、特定の関係者以外がアクセスできない状態でいきます。対応表は、本大学の責任者が保管・管理します。研究終了後に、得られたデータセット等は倫理委員会事務局に提出され、帝京大学臨床研究センターにて 10 年保管された後に廃棄されます。又、研究の実施によって得られたデータの一部は公的データベースへ登録されますが、データベースへの登録により、国内外の研究者がデータを利用することが可能になるので、病気の診断や予防、治療等をより効果的に行うために役立てられる事が期待されます。

本研究で解析される一部検体はヒトゲノム・遺伝子解析にも使用されますが、検体を頂いた患者さんにその結果はお知らせしません。ただし、遺伝子解析結果が生命に重大な影響を与えることが判明し、かつそれに対する有効な対処方法がある場合は、検体を頂いた患者さんに解析情報の開示に同意して頂けるかお伺いする場合があります。これらの結果の患者さんの血縁者への開示は、ご本人の同意がない場合は原則として行いません。ただし、患者さんの遺伝情報が、血縁者の生命に重大な影響を与える可能性が高く、かつ、有効な対処法がある場合には、可能な限りご本人の同意を得るよう努力した上で、血縁者にその情報の開示に同意して頂けるかお伺いすることがあります。その際必要があれば、当院の遺伝子カウンセリング担当者（渡邊清高病院教授）にご紹介いたします。

〔その他〕

本学研究分担者のうち1名は MSD 株式会社にも所属していますが、客観的指標を用い恣意的な判断が行われないように対応します。また、本臨床研究の利益相反関係は、帝京大学板橋キャンパス利益相反管理委員会、先端総合研究機構利益相反管理委員会の審査と承認を得ています。相反関係に変更があった場合は、各委員会に変更申告を行い、承認を得ます。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 岡本康司 職名 教授
所属: 帝京大学・先端総合研究機構
住所: TEL: 03-3964-8469